

応援の力は偉大

兵庫県 感謝しかない

6年前の神戸マラソン。かなりの練習不足で迎えた本番当日。10キロで足は痛かったが、久しぶりに走れたことが嬉しく、また沿道の応援が後押ししてくれ、半分まで行けたら十分という気持ちで足を進めた。すでに足は限界、もう無理だなと思ったら関門封鎖の壁。「あと3分で関門封鎖やで！完走出来へんぞ」と沿道から熱い応援。そう声をかけられると頑張るしかない。目標は次の関門クリアに！31.6キロの関門は30秒前にクリア。私の後ろにも必死に走ってくるランナー。思わず手を叩いて応援していた。残り1秒でクリア出来た女の子とは握手を交わした。さすがに次の関門は限界だろうと諦めかけた瞬間、沿道から私の名前を呼ぶ声。大好きな先輩だった。なんと声援を送り続けて3キロも並走して下さった。先輩と別れ、沿道の方が入れない最後の上り坂でまた心が折れかけたら、握手を交わした女の子が「頑張りましょう」と声をかけてくれた。10キロも走れないかもと出場したが、人の支えのおかげで完走出来た。沿道の応援、先輩、女の子がいなければ間違いなく棄権していただろう。心の底から感謝と友情を感じたマラソン。次こそ十分練習し、感謝の気持ちで走りきりたい。

ランナーエピソード わたしの『感謝と友情』ストーリー



KOBE MARATHON
2022.11.20 SUN